

勇気を持って、自分の困難に向き合おう！

“風薫る5月”さわやかな空気が大地を包む季節になりました。平素は聖母の小さな学校の教育にご理解、ご協力をいただき、深く感謝いたしております。

新学年が始まり、1ヶ月が経ちました。通学している生徒たちも、毎日通学していた生徒が、体の不調を訴えたり生活の基本的リズムを崩したりして、定刻に毎日聖母へ登校することができなくなっています。そんな時生徒たちは、自分でも理由が分からず身動きが取れなくなって、重苦しく沈んでいきます。そのような時に、本人や教師や保護者はどうすればいいのでしょうか。実は、この時こそ（どうしていいか分からなくて困っている時こそ）大きな意味のある時なのです。

今まで活発に聖母に通学していた時のことをじっくり見て、また、身動きが取れなくなっている自分の心の中に何が動いているか、見てみるのはどうでしょう。「じっくり見つめる」ということは、同じことをたびたび見る（意識する）ことです。自分自身を見つめるチャンスになります。聖母という「社会的自立が可能になる学びの場」という船に乗っているわけですから、安心して自分を見つめることができます。このように生徒が自分をじっくり見てみると、「聖母などという不登校の生徒が通う所になど、私は行きたくない！自分が不登校だなんて、認めるものか！」と拒否している自分が見えるかもしれない。また、自分は不登校ではない！と思い込ませている自分が見えるかもしれない、また、自分が原籍校に登校できなくなった時のことを思い出し、そこにあった感情や身体的な不調の中に、新たな気づきを見るかもしれない…いずれにしても、本当の自分に一步近づくことができます。そこを通過してこそ、現在の自分自身の課題がつかめます。課題をつかみ取り組むことは、成長につながります。また、保護者にとっても子どもをじっくり見ることは、子どもへの愛情を深めることになります。また同時に、自分自身に目を向けることになります。自分自身の考え方や家庭での在り方を再考させられることがあるかも知れません。そうして自身も家族も成長していくのです。教師もそうです。身動きが取れなくなった生徒の一人ひとりをたびたび頭に浮かべ、色々考えます。また、一人の生徒をじっくり、ゆっくり見てみます。じっくり、ゆっくりと時間をかけて見ていきますと、必ず子どもたちの「何とかしたい！」という、じっくり見ないと聞こえない声が聞こえます。「何とかしたい！」という声を聞くと、教師はあきらめなくて済みます。どうぞ、原籍校の先生方も、学校教育の中で困難を抱える生徒の相談にいらしてください。その生徒の教育を考える時、視野が広がり、展望が開けますので、是非、活用ください。

コロナの感染が収まりません。京都府にも緊急事態宣言が発令されております。聖母も今まで以上に、マスク、消毒、手洗い（自分専用拭き）等、徹底しております。また空気加湿清浄機等を新たに設置いたしました。今月も感染防止を徹底しながら、府及び市が出す行動指針に添って教育にあたります。よろしく願いいたします。

<今月の主な行事>

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 11日（火）数学（江宮先生） | 16日（日）「鯖街道を歩く」（第3回目） |
| 12日（水）体育（渡邊先生） | 20日（木）華道教室 |
| 13日（木）「鯖街道を歩く」事前学習 | 21日（金）釣り大会 |
| 14日（金）・28日（金）ギター教室 | 28日（金）月例保護者会 18:30～ |